

平成 29 年度 第 1 回安曇野市博物館協議会 会議概要

- 1 会議名 平成 29 年度 第 1 回安曇野市博物館協議会
- 2 日 時 平成 29 年 5 月 11 日 午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで
- 3 会 場 安曇野市役所本庁舎 3 階 共用会議室 305
- 4 出席者 笹本委員、滝沢委員、高原委員、細野委員、宮澤委員、林委員、赤沼委員、
荒深館長（豊科近代美術館・飯沼飛行士記念館）、斉藤館長（田淵行男記念館）、
太月館長（穂高陶芸会館）、宮下館長（安曇野高橋節郎記念美術館）、清水館
長（貞享義民記念館）、内川館長（臼井吉見文学館）、百瀬館長（豊科郷土博
物館）
- 5 担当課出席者 山田部長、那須野文化課長、三澤文化振興係長、財津博物館係長、逸見博
物館係主査、太田博物館係主事、堀文化振興係員、倉石博物館係員、松田博
物館係員、水谷文化振興係主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 29 年 5 月 15 日

協 議 事 項 等

会議の概要

- 1 開 会 （那須野文化課長）
- 2 あいさつ （山田教育部長）
- 3 報告・協議
(1) 平成 28 年度事業報告について(資料 1)
(2) その他
- 4 閉 会

協議・報告概要

- (1) 平成 28 年度事業報告について(資料 1)

各博物館による事業報告に対する委員のコメント

●豊科近代美術館について

平成 28 年度「高橋貞夫木彫&彫彩展」では自然との対峙を見せ、有能な人を発掘している。本市が取り組む子どもたちへの教育に関する展示も行っている。この美術館のもう一つの重要な役割は景観や環境も楽しめることである。

●田淵行男記念館について

田淵行男の業績がメディアに取り上げられ入館者が増えた。館の周辺環境、景観等が館の魅力を高めている。

●飯沼飛行士記念館について

「神風号」を知らない世代が増え、館の入館者数は時代の変化とともに難しくなっている。現状のような社会ではやむを得ないが引き続き努力してほしい。

●穂高陶芸会館について

作陶体験ができる唯一の公共施設で、安曇野の良さを全国的にアピールしている施設である。作陶したカップを持って美術館へ行くとサービスがあるのはありがたい。ぜひ美術館、博物館が横に連携しながら企画して頂きたい。

●高橋節郎記念美術館について

次々と新企画を打ち出し、継続していることは評価に値する。安曇野市の博物館、美術館はそれぞれ館に対し愛情を持ち、少しでも市民のためにとという気が伝わるが、その代表が高橋節郎記念美術館である。景観もすばらしく、庭園の美化に努めていただくのはありがたい。

●貞享義民記念館について

歴史の分野では近ごろ百姓一揆の研究はほとんどされなくなった。そういう中で地元根付いてやっているのはすばらしい。人権という分野を扱うことを感謝している。

●臼井吉見文学館について

時代の移り変わりとともに臼井吉見と小説『安曇野』がだんだん知られなくなってきた。臼井文学館があることは安曇野市が心を持っているということであり、立地も好条件で伸びる可能性のある施設である。

●穂高郷土資料館について

限られた人数と規模でこれだけの企画をしているのはすばらしい。展示物を通じてしっかり安曇野を見てもらうという博物館本来のありかたがある。

●安曇野市美術館博物館連携事業について

外国語のパンフレット等安曇野市は印刷物を外注に任せず限られた予算の中で自分たちの力で作成しているのはすごくがんばってくれている。

(2) その他

●豊科近代美術館をはじめ、質のいい作品を展示している。今後も郷土作家の発掘と顕彰をしてほしい。

●市の地域に根差した教育を進めていこうと小中学校で業務を進めている。博物館・美術館で「この館ではこういう学習につながる」と具体的に授業に直結するアナウンスがあるといいのでは。

●子どもを呼び込む点について、子どもを連れて行くのは保護者なので、保護者が興味をもつ、例えば各館を巡るモデルルート等をつくれればよいのではないかな。

●観光は市民以外の人に向けた発信が多いが、市民に向けても発信する必要がある。観光部局及び教育委員会で議論する必要がある。博物館は本来観光客のものではなく、市民のものであり、最終目標は市が良くなり市民が幸せになることである。市民から「より良い市になったね」と言ってもらえるような材料となるのが博物館であるので、これを議論して頂きたい。

●10代・20代の若年層向けの企画をし、次世代の人に作品を見てもらうことで教育面での良い影響が出るのではないかな。

●若年層をどう取り込むかが問題である。各館だけでなく市全体の問題。博物館・美術館は子どもたちに見てもらいたい。本市の博物館・美術館は必ず子ども対象の企画が織り込まれている。子どもの時に博物館・美術館に来て体験した人が大人になって再

び来館する。

- 豊科近代美術館の周辺の環境が非常に良い。石畳を有効に活用してはどうか。
- 臼井文学館、白い土蔵と常念岳の景観も美しいが、桜の木が成長し土蔵と山、臼井文学館の案内板も見えにくくなっている。景観を美しくするため木を整備してはどうか。
- 本協議会としては市として山の景観と美術館をどう美しく見せるかをお考えいただきたい。「桜を見たい」「土蔵と常念岳の景観を見たい」というそれぞれの要望をどうやってつなげていくか、臼井文学館の案内板と景観の問題は非常に重要である。
- 美術館に来館した時に受付の方の対応が非常によく、気持ちよく見学できた。
- 安曇野に赴任した教員が美術館・博物館を廻れば教育に役立つのでは。
- 公立の博物館・美術館は月曜休館であるがどこか1館でも月曜日に開館してほしい。天気の悪い時に安曇野を巡るときに行く場所がない。
- 月曜休館にしないというのは、人員確保的にも難しいのではないか。
- 受付は大事。最初に入館した時に対応する人次第で印象が良くなる
- 安曇野市のことをよくわからずに教師はできない、夏休みに美術館・博物館をまわるスタンプラリーなどを行ってもらえばどうか。
- 貞享義民記念館は当時の思いを今後どうやって伝えていくか、今も多様な差別が起きている世の中、貞享義民記念館の来館者に何かをつかんでいてもらいたい。
- 出前講座をしていることは非常にありがたい。学校への出前講座がきっかけで先生は夏休みを利用して安曇野を巡る。
- 季刊誌『安曇野文化』の中に各博物館・美術館をアピールする頁を作るので連携してほしい。
- 他人の痛みがわかる子どもを育てるために博物館の役割は大きい、とりわけ貞享義民記念館は人権を取り扱っているため、期待される。
- 全体の景観を含めての博物館・美術館であってほしい。北アルプスの景観は各館によって違うため、各館活かしてほしい
- SNSを利用して情報をアピールしてほしい。
- 安曇野市は穂高と明科、東西で文化が違う。東西の土器の比較をして展示するのはおもしろい。

以上